

フードバンク関西ニュース 2017年3月20日 第36号

フードバンク関西は企業から寄贈された食品を
支援を必要とする人達を支える非営利団体に
無償で分配する活動をしています。

2017年3月20日発行
認定特定非営利活動法人
フードバンク関西

事務所 芦屋市呉川町1-15
TEL/FAX 0797-34-8330
e-mail foodbank05@yahoo.co.jp
URL <https://foodbankkansai.org/>

兵庫こども食堂ネットワークを立ち上げました

どの子どもみんな笑顔になあれ ～ 子ども食堂

日本では、非正規就労や片親世帯の増加に伴い、家庭において収入や時間の余裕が失われ、孤食・欠食という食生活面を含む、成育全般において不十分な環境におかれている子どもたちが6人に1人いるという統計があります。

そうした中、地域住民ボランティアが栄養バランスのとれた温かい食事と大人たちとの交流の場を提供し、地域で子どもたちを支える「子ども食堂」が広がり、阪神間にも多数の子ども食堂が開設されています。

子ども食堂は、一般的に地域のつながりと地域の食材を活用して運営されていますが、子どもたちに無償または安価で、継続的に食事を提供するには、食材の調達や確保の負担が大きくなります。

フードバンク関西は、希望する子ども食堂に、当法人が取り扱う食品を提供し、その運営が軌道に乗り、安定的に継続するための支援をします。

子ども食堂は、誰でも利用できるように、「子どもたちが歩いて通える範囲に一つ」あるのが理想といえます。さらなる子ども食堂の普及と、持続的、安定的な運営を支えるため、フードバンク関西からの食材の提供の有無に関わらず、近隣地域の子ども食堂が参加し、情報の交換やノウハウの共有ができるネットワークを設立しました。



第1回ネットワーク会議を2月21日に開催しました

平成29年2月21日（火）木口記念会館大会議室にて第1回 こども食堂ネットワーク会議を開催しました。名称を「兵庫こども食堂ネットワーク」とし、34こども食堂が登録してのスタートです。

第1回ネットワーク会議には、26のこども食堂運営団体の参加がありました。会場いっぱい、あふれんばかりの参加者の多さに、このような機会が求められていたのだなと感じました。

自己紹介を兼ねて、それぞれの現状、課題、このネットワークに期待することなどをお話いただきました。「こども食堂」といっても、開催頻度や参加人数、形態、参加費など千差万別で、地域によって自分たちに合ったやり方を模索しながら運営されていることを改めて認識しました。しかし、「子どもたちがみんな笑顔で過ごせるように」という思いは共通です。その思いを実現し、続けていけるよう、ネットワークを通じてサポートしていきたいと思います。



ネットワークの概要

1. 定期的なネットワーク会議の開催 (2、3か月に1回程度)

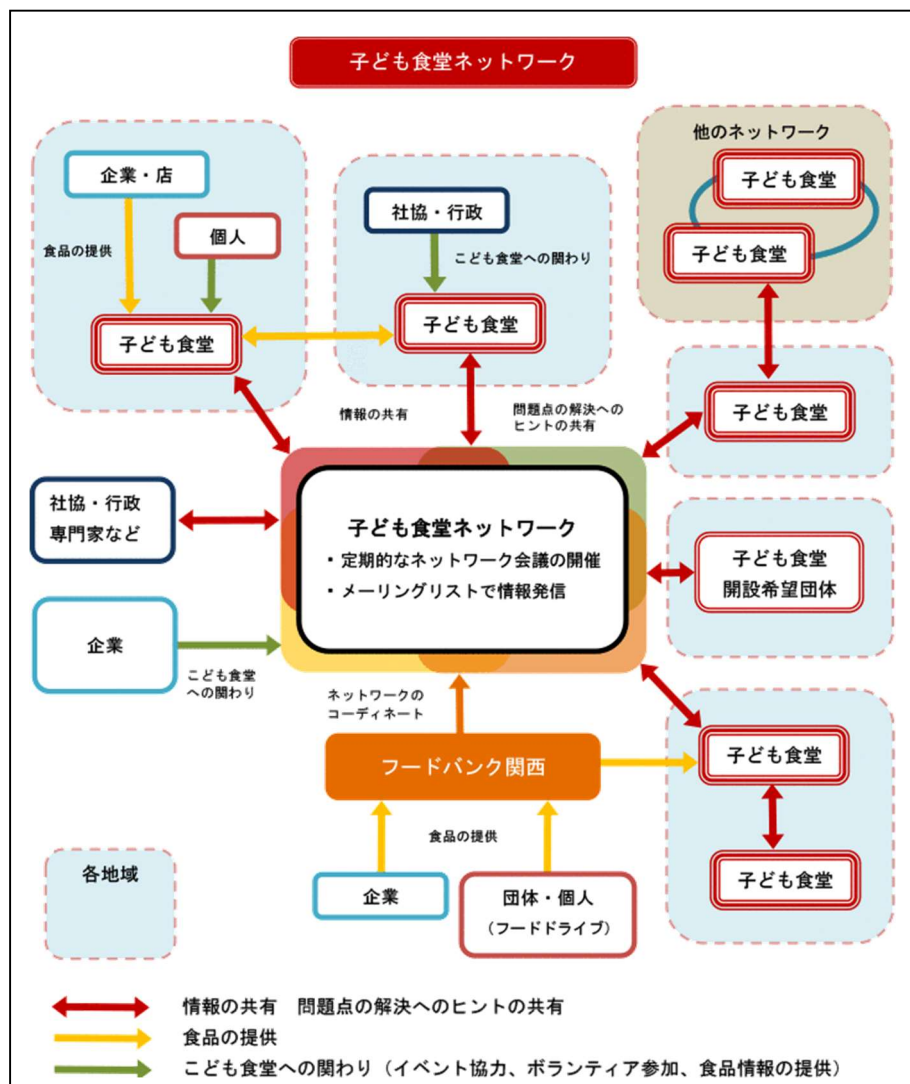
- ・定期的に集まり、情報交換をする中で、各団体が抱える課題を出し合い、解決策を探ります。
- ・行政や社協の担当者や、専門家を交え、必要に応じて情報提供を依頼し、勉強会などを開催します。
- ・企業を交え、必要性の高い食材の提供、イベントへの協力、社員のボランティア参加などを促します。

2. 参加メンバー

- ・子ども食堂の運営関係者
(当法人からの食材提供の有無に関わりなく、兵庫 南部地域の全ての子ども食堂を対象とします)
- ・行政や社協の関係者、企業関係者、福祉関連専門家等

3. グループメールによる、日常的な情報交換

- ・子ども食堂の開催状況の報告、簡単な相談と回答のやり取り、ノウハウの交換など。
- ・食材の情報提供、食材のやり取りの相談など。



受取り団体インタビュー

フードバンク関西の受取り団体の声をお届けします。第1回目は にしなり☆こども食堂さんです。

①貴団体の事業内容と主な目的とアピールポイントを教えてください。

事業内容

毎週火、水、土曜日の3回子ども食堂開催 子どもが
40人～50人が対象です。

目的

地域ぐるみで垣根のない居場所を作ること、制度の
はざまの困りごとに、様々な人たちが助け合い、繋がる。
こどもが笑顔になると、大人も笑顔になる。

「ほっとけない」課題を「にしなり☆こども食堂」という
形で改善しようと活動を続けています。

アピールポイント

「ごはんが命と心を元気にしてくれる」手作りのごはんを通じて、
ありのままの自分をあたたかく迎えてくれる人、信頼できる人につながった時、そこから、こどもの人生が
変わっていきます。こどもたちに必要なもの そんな活動を行っています。

②フードバンク関西の活動をどのように感じていますか？

フードバンク関西の活動が無ければ、立ち上げ時期の不安定な食堂運営を維持できていなかったと感じ
ています。

こども食堂運営に、フードバンク関西の活動は無くってはならない活動だと思います。



フードバンク世界事情

フードバンク活動の発祥の地は、アメリカ合衆国、1967年アリゾナ州で牧師をしていたジョン・ヴァンヘンさんが、スーパーでまだ食べられる食品が大量に廃棄されていることを知り、それを寄付してもらい困窮者支援を行う活動を開始し、セントメアリーズフードバンクと命名した事が始まりです。現在は、200あまりのフードバンク団体が、年間200万トンにも及ぶまだ食べられるのに廃棄されている食品（食品ロス）を生活困窮者に無償で渡しています。

ヨーロッパには、1980年代にこの活動が拡がり、ドイツ、フランス、イギリスその他各国でボランティア団体が積極的に活動しています。注目すべきはフランスで、2016年2月にエネルギー転換法が施行され、スーパーマーケットは食品を一切廃棄できなくなり、余剰品が発生した場合はフードバンクに寄付することが義務付けられました。

韓国では、1998年のアジア通貨危機のころ、フードバンクは自治体のモデル事業として始められ、政府系中央フードバンク、その下部機関として広域フードバンク（17か所）そして市、郡、区単位の社会福祉協議会が、基礎フードバンク（353か所）とフードマーケット（130か所）を運営しています。それとは別に民間のフードバンクも活動しています。

日本では、現在40数団体のフードバンクが活動していると言われます。それでも規模は小さく、取扱量は全団体を合計しても4000トン余りです。

韓国フードバンク視察旅行

浅葉めぐみ

2016年8月末、研究者達の韓国フードバンク視察旅行に同行し、韓国ソウルに行きました。今回の視察では、ソウル広域フードバンク、永登浦、江南基礎フードバンクとフードマーケット、民間フードバンクである聖公会フードバンク本部を訪問しました。

まずソウル広域フードバンクですが、大規模倉庫並みの設備と大きさを保ち、物流の要の機能を果たしています。

基礎フードバンクはソウル市内だけでも全区の社協に置かれ、活動しています。見学した永登浦、江南フードバンクは、いずれも建物が社協の福祉会館の中に十分な面積を提供され、人件費、運営費が市と区から支出され専従職員も10人近くいます。

基礎フードバンクには、コンビニのようなフードマーケットがあり、利用者が毎月5ポイントまで食品を自分で選ぶことが出来ます。5ポイントでお米3キロ、味噌1キロ、乾麺5袋、醤油や油1本、洗剤1箱程度を調達できます。月1回の支給量としては少なめですが、賞味期限が迫った食品、日配品はポイント外で提供されるとの事でした。

フードマーケットを利用するには区役所で審査を受ける必要があり、生活保護受給者や同程度の困窮者への現物支給という側面が強いと感じました。

一方、民間フードバンクである聖公会フードバンクでは、区役所で生活保護の受給資格を得られない深刻な困窮生活を送る人達（売れない不動産の所有、子供は高収入だが仕送りが無いなど）を支援対象としています。



広域フードバンクの倉庫内



基礎フードバンクに併設されているフードマーケット

その点で韓国は、政府系フードバンクが救済しない困窮者に民間の聖公会フードバンクが手を差し伸べ、官民併せて困窮者への食支援環境が整っていると感じました。

聖公会フードバンクの将来像は、食べ物の調達を企業や個人からの余剰食品に依存するのみではなく、安い輸入農産物の流入で疲弊している農村地域の放置された農地を農園として再興して地方毎に食糧自給をはかり、そのモデルを農村の疲弊が著しいアジア全域に広げていくというものです。またその資金調達の手段として、自らが社会的事業を展開して（都市部でチャリティコンサート開催やチャリティレストランの運営）収益を上げ、それらをこの事業に投入すると、リーダーであるキム牧師は熱く語っておられました。

韓国は首都ソウルに人も物も集中し、地方との格差拡大が顕著ですが、その中で民間の聖公会フードバンクが都市と地方の格差拡大と貧困の問題を見逃さず、その解決を自らの社会的起業として取り組もうとしている点はフードバンクの将来の発展的な出口として興味を抱きました。今後を注目したいと思います。

日本のフードバンクも、さらに存在感を増し、貧困への対応や食品ロスの問題解決へ積極的な取り組みをしていく必要があります。各地域で別々に活動しているフードバンク団体が連携し、フードバンク事業を行うための法整備や、行政や企業への働きかけを強めていく必要がある事を実感して、この視察旅行を終えました。

第8回ラッフルキルト抽選会及び懇親会の開催

昨年12月2日金曜日夜6時半から、神戸市元町にあるホテルモントレ神戸にて、第8回ラッフルキルト抽選会と懇親会を、開催しました。今回は、ラッフル寄付65万9千円が寄せられました。寄付をお寄せくださいました皆様、ありがとうございました。いただきました寄付金は、当法人の運営資金として、大切に活用させていただきます。

抽選会と懇親会には、キルトリーダース兵庫の先生3人と受け取り団体の皆さん、当法人ボランティア、総勢59人が参加しました。団欒しながらのお食事のあと、キルトリーダース兵庫の先生方の合作1点が、高砂市にある母子生活支援施設「そねホーム」に寄贈されました。

抽選会では、キルト作品4点、協賛企業様からの食品ギフトやコーヒーマシン等、特賞10点余りの抽選が次々行われました。抽選の結果は翌日当法人のホームページに発表し、翌日大半の賞品を宅配便等により発送致しました。今回から蓬萊本館のギフトセット（冷蔵品）のご協賛をいただいたので、それは蓬萊本館様からの直送になりました。



そねホームへの作品の贈呈

今年の秋にも、第9回ラッフルキルトを開催します。ご協力よろしくお願いします。

編集後記

2月のある日、突然マレーシアのフードバンク KECHARA で活動する Justin Cheah さんが事務所を訪問されました。観光旅行のついでに、どうしてもフードバンク関西の事務所を見たかったとの事です。主にホームレス等困窮者への食支援をしているとの事でした。フードバンクは着実に世界で広がっています。久しぶりにニュースの編集に携わることになり、字ばかりにならないよう、読みやすいニュース面になるよう、努力したつもりですが、いかがでしょうか？子ども食堂ブームで、今はいろいろなイベントに参加者が多く、大変結構なことなのですが、これが一時的なトレンドで終わってしまわないように、息の長い活動になるよう、フードバンクもできる支援をしていきたいと思っています。

（浅葉）

余った食べ物を預かって、必要なところに届けます

特定非営利活動法人フードバンク関西

事務所 〒659-0051 芦屋市呉川町1-15 TEL/FAX 0797-34-8330

e-mail foodbank05@yahoo.co.jp URL <http://foodbankkansai.org/>

寄付のご送金方法 郵便振替口座 00940-4-221867 口座名義 特定非営利活動法人フードバンク関西



フードバンク関西の業は「赤い羽根共同募金」の助成を受けて実施しています。